

入選 岐阜県 寺阪 大起 様 (高校生 男性)

僕は、今回日本の公的年金制度について学ぶことができ本当に良かったと感じている。

僕の知り合いの方に「将来年金はもらえなくなるかもしれない。」と民間の保険会社のセールスマンに言われたことがきっかけとなり、その後、国民年金（基礎年金）に加入せず個人年金だけに加入した人がいる。しかし、公的年金制度は、老齢年金だけでなく、障害年金、遺族年金も受け取れることをその方は後に知って後悔していると言っていた。

確かに、少子高齢化はますます深刻化し、65歳以上の高齢者は増加していき、全人口にしめる割合は4人に1人で、8人に1人が75歳以上の高齢者である。さらに2025年には高齢者は30%を突破し、2055年には40%、後期高齢者が全人口の4人に1人になると言われている。そうになると僕たちが高齢者を支えていけるのだろうかと言われている。そうだとすると僕たちが高齢者を支えていけるのだろうかと言われている。そうだとすると僕たちが高齢者を支えていけるのだろうかと言われている。そうだとすると僕たちが高齢者を支えていけるのだろうかと言われている。

2000年に高齢社会に対応する新しい社会保障制度として介護保険制度が誕生した。高齢者介護を社会全体で支えるためにつくられた制度だろう。

また、僕の母はサービス付き高齢者住宅で相談員として働いている。年金から家賃、食費、光熱費などを支払っている方もおり、入居されている高齢者の方は、「頑張って年金を払っていたおかげで、こんな良い所で安心して生活することができているよ。」と母に話したようだ。

やはり、年金が高齢者の暮らしを支えていることがよく分かる。僕の祖父、祖母も年金があることで本当にありがたいと話してくれる。

世界の年金制度についても僕は興味を持った。少子高齢化による年金制度の問題は日本だけが抱えているわけではなかった。なんとアメリカやイギリス、ドイツなどの先進国共通の問題でもあることを知った。その中で、年金の支給開始年齢が引き上げられていく予定だ。また、日本は年金受給のために必要とされる加入期間が今年の8月から10年に短縮されるという予定があるが、他国と比べ、25年というのはとても長かった。しかし、強制加入対象者については日本だけが、全居住者とある。その納付率は、厚生年金などを合わせた公的年金加入者全体の約97%の人が保険料を納付している。このことについて、

僕はとてもすごいことだと感じた。

このように日本はさまざまな保険料を納めているが、それは全て「世代と世代の支え合い」であると思う。国民の中には、「年金制度はなくした方が良い」などと言う人もいるはずだ。僕自身もこれまで年金について調べることもなく知らないことがほとんどだった。しかし今は、年金があることで、高齢者や障がい者、遺族などの多くの人たちが安心して幸せに暮らせる日本になっていると思う。そう思うからこそ、僕は将来、平和な日本をつくることに協力できるよう、しっかりと年金を納めていきたい。